

# 学校評価

宮城県鹿島台商業高等学校 発行  
 〒989-4104 大崎市鹿島台広長字空師前44  
 TEL 0229(56)2664 FAX 0229(56)2461  
 HP <http://kasimadai-ch.myswan.ne.jp/>

平成23年12月、全校生徒並びに保護者を対象に「学校評価アンケート」を実施しました。その結果がまとまりましたので、報告いたします。

## 生徒による学校評価



### ・回収状況

311名在籍で288名の回収となった。回収率は96.5%である。

### ・分析【肯定的な評価が、前年度比上下5%以上の変化があるものについて】

#### 1 「校訓を知っている。」

昨年度比6.4ポイント上昇。しかし、その肯定的な割合は54.9%とやっと半数を超えた程度であり、残りの生徒は自分の学校の校訓を分かっていない状況が依然として伺える。

#### 3 「資格取得に向けた指導が充実している。」

昨年度も80%を超えて評価されていたが、さらに7.3ポイント評価が上がり87.8%となっている。資格取得に向けた先生方の指導によるところが大きい。この評価が減じないよう今後の対応が重要と思われる。

#### 4 「先生は、学習した内容が分かるまで教えてくれる。」

昨年度比7.2ポイント上昇。これも先生方のしっかりとした指導があってこそと思われる。今年度はじめて70%台になった。次年度以降も上昇に向け資格取得同様指導の工夫等を継続する。

#### 5 「学習成績の評価について、きまりがよく知らされている。」

昨年度比9.4ポイント上昇。80%台となった。先生方が平日頃より生徒への評価の有り様を伝えていることによるものである。評価はしっかりと生徒に意識させ、学習することの大切さを認識させることが大切である。

#### 11 「生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。」

昨年度比9.0ポイント上昇。震災後の影響も考えられるが、進路指導部、3学年、他多くの先生方からご指導や声掛けがその要因と思われる。

#### 17 「生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。」

昨年度比10.6ポイント上昇。これは震災がかなり大きな要因となっていると考えられる。生徒一人一人が意識をもって生活している様子が伺われる。さらにしっかりとした情報伝達の手法を検討する必要がある。

#### 18 「保護者に対して、学校便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている。」

昨年度比10.7ポイント上昇。継続して学校便りが発行されていることやクラス毎学級だよりが発行されて、学校やクラスの情報が生徒に伝わっている事への評価と思われる。

#### 19 「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。」

昨年度比-12.3ポイント減少。生徒の評価においては唯一の減少となった。震災による体育館の被災が大きな要因である。早期改修が待たれる。

全体として、肯定的（「そう思う」「だいたいそう思う」）なアンケート結果となっており、前年度のアンケート結果を踏まえ、学校として取り組んできたことが成果として現れたものと考えられる。否定的なものとしては、施設設備への要望が多かった。震災で被災した体育館の利用ができなかったことが大きく影響している。すでに震災箇所の修繕工事は終了しており、卒業式より使用できる状況である。

## 保護者による学校評価



### ・回収状況

311名在籍で257名の回収となった。回収率は82.6%である。昨年度から回収率が大幅に上昇した。回収にご協力頂いた保護者の皆様に感謝いたします。

### ・分析【肯定的な評価が、前年度比上下5%以上の増減があるものについて】

#### 1 「校訓を知っている。」

昨年度比14.8ポイント上昇。生徒同様、その肯定的な割合は約50%とやっと半数を超えた状況であり依然として浸透しているとは思えない状況である。

#### 2 「P T A 活動は活発である。」

昨年度比14.0ポイント上昇。大幅に上昇し活動が目に見えるようになってきたのかと思われる。しかし「校訓」同様、上昇したものの割合としては60%台とすることで、さらに活発な対応が望まれる。

#### 9 「お子さんの学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。」

前年度比8.1ポイント上昇。授業に対して肯定的な割合は74.0%となっている。昨年度よりは増加しており、次年度に向けても更なるポイントの上昇のため一人一人の努力が重要と思われる。

#### 11 「お子さんの進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている。」

昨年度比6.0ポイント上昇。生徒の評価と同様に肯定的な割合が増えている。生徒に対する進路指導部、3学年、他多くの先生方からの指導や声掛けが、保護者にも伝わっていることと思われる。

#### 13 「学校として、部活動は活発である。」

昨年度比7.8ポイント減少。震災の影響がその要因として挙げられるが、部活動の活性化への取り組みは従前から望まれるところである。

#### 14 「地域や伝統に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる。」

昨年度比5.3ポイント上昇。地域と連携した生徒の取り組み等、生徒の活動の中で保護者の皆さんが感じ取った印象からと思われる。一層、地域との連携等にかかる積極的な取り組みや工夫が大切である。

#### 17 「保護者に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている。」

前年度比10.1ポイント減少。大幅な減少となっている。生徒からの評価は肯定的評価が増加しているが、保護者からは震災の影響もあり厳しい評価となった。今年度はメール配信の対応について周知を図ってきたが、十分に周知できなかった。しっかりと情報伝達ができるよう、さらにいろいろな工夫が必要である。

#### 19 「校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。」

前年度比13.7ポイント減少。この項目も大幅な減少となっている。生徒からの評価も同様で、震災の影響による体育館や校舎の被災により、使用できないことが大きな要因と思われる。平成24年度は修繕も終了し、使用できる状態となっている。

全体として、生徒の評価同様に保護者も肯定的（「そう思う」「だいたいそう思う」）なアンケート結果となっており、前年度を踏まえ、学校として取り組んできたことが結果として現れたものと考えられる。否定的なものとしては、生徒と同じく施設設備への要望が多かった。震災で被災した体育館の利用ができなかったことが大きい。また災害や非常時における連絡方法についても、保護者からの要望がうかがえる。連絡方法等の情報伝達の在り方についてさらに吟味していく必要があると思われる。また、部活動については、生徒・保護者とも活発ではないとの思いがあるようであり、部活動の活性化に向けて検討が必要である。